様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３４３０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０８４７２

研究課題名（和文）薬学生・薬剤師の「対人援助力」養成のための新しい実践的教育プログラムの構築

研究課題名（英文）Construction of a new practical educational program for pharmaceutical students and pharmacists to develop "interpersonal support skills"

研究代表者
伊原　千晶（Ihara, Chiaki）

京都先端科学大学・人文学部・准教授

研究者番号：８０２８８５８９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　「薬を数えて袋に詰める」という薬剤師の職能は、医療の高度化・少子高齢化といった社会的変化と共に劇的に変容し、患者の心に寄り添い、服薬や意思決定などに関わることを求められるようになった。しかし現在の薬学教育はコミュニケーション教育・接遇教育に止まり、真に対人援助職として機能できる薬剤師養成のプログラムを持たなかった。
　本研究においては、心理学・臨床心理学・精神医学を体系的・継続的に学ぶことによって、薬剤師が対人援助職として十全に機能できることを示した。また災害時の支援、コロナ禍のメンタルヘルスの悪化に対しても、健康サポートの観点から地域住民にかかわることが可能であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
服薬・副作用に対する不安、病気であることの否認などの心理的課題を持つ患者に対する服薬指導では、患者の心理・特性の知的理解、現在の状況への共感的理解に基づいた、良好な薬剤師－患者関係が必要不可欠である。本研究の意義は、現行の教育課程に含まれない心理学・臨床心理学・精神医学的知識を体系的・継続的に学ぶことで、薬剤師が患者に寄り添う対人援助職として機能できる可能性を示唆したことにある。地域医療を担う薬剤師がメンタルヘルスも含めた健康サポート機能を持つことは、今後の日本の医療体制において極めて重要であり、更なる研究が望まれる。

研究成果の概要（英文）：The pharmacist's function of "counting and packing medicines into bags" has changed dramatically with social changes such as sophistication of medical care, declining birthrate and aging population. They are now expected to empathize with patients and be involved in drug administration and decision-making. However, current pharmacy education is limited to communication education and hospitality education, and does not have a program to train pharmacists who can truly function as helping profession. In this study, it was shown that pharmacists can fully function as helping profession by studying psychology, clinical psychology, and psychiatry systematically and continuously. In addition, it was suggested that it is possible to get involved with local residents from the perspective of health support for support during disasters and deterioration of mental health due to COVID-19.

研究分野：薬学教育

キーワード：薬剤師養成　臨床心理学　対人援助　カリキュラム開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

在宅医療を受ける高齢者や難病患者における希死念慮への対応、がんサバイバーへの薬物治療など、薬剤師の職域の拡大・薬物治療の進化と共に、科学的・薬学的対応以上を求められる問題に薬剤師が遭遇する頻度は高まった。平成 25 年制定の「薬剤師として求められる基本的な資質」には、使命感・責任感・倫理観、人権の尊重・秘密保持、コミュケーション能力等の対人援助職的要素が明記され、続く平成 27 年 10 月 23 日付発表の「患者のための薬局ビジョン」では「薬剤師は、従来の対物業務から対人業務へとシフトを図ることが必要」と明記され、日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる「かかりつけ薬剤師」が制定され、「健康サポート薬局」の機能も提示された。これらは「患者の心理等にも適切に配慮して相談に傾聴」する薬剤師、すなわち「対人援助職としての薬剤師」が社会的要請であることを示唆している。しかしこれを可能にするための、薬学生・薬剤師への心理学的・臨床心理学的・精神医学的教育内容は、他の医療職教育と比較しても十分ではなく(伊原 2013)、社会的な要請に応えているとは言い難いのが実情であった。

研究代表者は申請時までに実施した薬剤師イメージについての調査、薬剤師が遭遇するディスコミュニケーション事象についての研究から、薬剤師が対人援助職として機能するという社会的要請に応えるための教育プログラム作成の必要性を強く感じ、本研究を着想した。

２．研究の目的

(1)本研究の目的は、「薬を媒体とした対人援助職」として十全に機能する薬剤師を養成する、という喫緊の課題達成に向けた実践的な教育内容・方法、つまり薬剤師のための「対人援助職養成教育」(HP 教育)プログラムを構築する事であった。具体的には、模擬患者を利用し、ディスコミュニケーション事象の解決方法を考えさせるようなシナリオを作成、それに基づいた教育を実施することにより、従来バラバラに教育されてきた、コミュニケーション・心理学・倫理学に関する知識と、その応用となる態度・技能を統合した形で教育するプログラムを開発しようと試みた。

(2)研究期間中に、(社)日本心理学会による 2019 年度「災害からの復興のための実践活動及び研究」助成も受けたため、薬剤師教育の中でも、特に災害支援薬剤師への教育を深化することを目的として追加した。

３．研究の方法

(1) 当初に予定された方法

臨床心理学・倫理学・精神医学・臨床薬学・薬学教育の各領域の専門家が合同で作成した模擬事例を活用した教育実践を薬学生・薬剤師対象に行い、有効性・教育現場での応用可能性といった教育方法としての評価を実施するとともに、患者との援助的関係構築に不可欠な共感的態度の醸成方法も検討することとした。

薬学生は臨床経験が乏しいことに鑑み、模擬患者として一組の夫婦(Teaching Family)のみを利用し、子供の病気・自分たちの両親の病気・思春期の問題・自分の病気等、家族の時間的流れに沿って医療者―患者間のやり取りを見せる Teaching Family (TF)方式を採択、一方薬剤師には指導者および数人の薬剤師がグループとなり、模擬患者(家族)と薬剤師の対話を観察・録画した後、薬剤師は録画を見て自己省察、観察者と指導者は討議するという Medi-KIT (MK)方式を活用することとした。

(2)変更後の方法

研究期間の延長に伴い、COVID-19 の蔓延が発生し、対面による研修会の実施が困難となった。そのため、ロールプレイ等を伴う態度涵養に関する研修会は実施不可能となり、講義も対面実施は不可能なため、ZOOM を用いた遠隔講義、及びファシリテーターを交えた 4～5 人ずつのグループ討議を行うこととした。

また大学が集合研修・学外者の立ち入りを禁止したため、薬学生対象の研修会も実施不可能となり、薬剤師のみを対象とした研修会の実施とした。

全研究期間のうち 2019 年度からは日本心理学会からの災害からの復興支援に関する助成も並行して受けたため、一般的な対人援助職教育としての心理学・臨床心理学・精神医学に関する知識の研修と同時に、災害支援に特化して、被災地において対人援助職として機能するための研修も実施した。

４．研究成果

研究成果としては、大きく分けて(1)薬剤師を対象とした心理学・臨床心理学・精神医学に関する研修会の実施　(2)災害支援薬剤師が経験するストレスについての調査及び支援のための研修会の実施　が挙げられる。以下、その内容を報告する。

(1) 「薬剤師のための臨床心理学講座」全 6 回の開催

コロナ下の実施となったため、すべて ZOOM を使用した遠隔授業となった。そのため、臨床心

理学的な態度涵養のためのロールプレイ等は実施できず、講義のみとなった。参加者は複数の世話役の薬剤師を通して Facebook 等を利用して募集。実施時期は 2020 年 8 月～2021 年 1 月。Zoom による遠隔ライブ授業とし当日不参加者には録画配信。午前・午後各 1 回、約 30 分間の SDG を含んで、基礎編 3 回では心理学・臨床心理学の基礎理論を、応用編 3 回では精神医学的知識や MHFA、心理アセスメント等を加えた実践的内容を講義、アンケートで評価を求めた。参加者は基礎編 47 人、応用編 30 人、薬剤師歴は 15 年以上であった。

いずれの回も、研修内容はグループ討議以外は全て録画され、研修会後約 1 か月の間、欠席者および希望者による視聴を可能とした。

研修会後に「知識習得」「テーマへの興味」「実務に役立つか」「重要性」「問題解決」について 7 段階でウェブアンケートを実施。基礎編では 3 回全体の事後評価平均として順に 4.35、6.03、5.74、5.97、5.68、応用編では 4.97、6.18、5.97、6.18、5.26 という高い評価を得た。

応用編においては、事後アンケートの 5 項目に基礎編の有用性の評価も加えた 6 項目間の相関検定を行ったところ、3 回全てにおいて「テーマへの関心」が残りの 5 項目と高い有意な相関を示し、特に「知識習得」「有用性」「重要性」とは全回で 1%水準で有意となった。すなわち、臨床心理学への興味が業務への有用性・重要性の評価に繋がることが示唆された。

研修会事後アンケート結果　相関表

	知識習得	テーマへの興味	業務への有用性	業務への重要性	問題解決	基礎編の有用性
知識習得	1	0.727	0.63	0.708	0.405	0.651
	1	0.468	0.413	0.305	0.293	0.401
	1	0.665	0.604	0.554	0.26	0.436
テーマへの興味	0.727	1	0.84	0.765	0.641	0.58
	0.468	1	0.783	0.664	0.648	0.402
	0.665	1	0.652	0.685	0.442	0.468
業務への有用性	0.63	0.84	1	0.863	0.676	0.679
	0.413	0.783	1	0.751	0.559	0.373
	0.604	0.652	1	0.706	0.429	0.424
業務への重要性	0.708	0.765	0.863	1	0.665	0.707
	0.305	0.664	0.751	1	0.548	0.167
	0.554	0.685	0.706	1	0.234	0.484
問題解決	0.405	0.641	0.676	0.665	1	0.633
	0.293	0.648	0.559	0.548	1	0.532
	0.26	0.442	0.429	0.234	1	0.366
基礎編の有用性	0.651	0.58	0.679	0.707	0.633	1
	0.401	0.402	0.373	0.167	0.532	1
	0.436	0.468	0.424	0.484	0.366	1

p＜0.01　　p＜0.05

これは、成人教育の観点から考えると、臨床現場での問題意識が成人である薬剤師の学習意欲を維持させている、と理解される。今回は心理学に興味を持つ薬剤師のみが対象で結果は一般化できないが、基礎的な臨床心理学を学ぶことが業務に有効だと評価する参加者が多く、継続的な研修は有用だと考えられた。

(2)災害支援薬剤師が経験するストレスについての調査及び支援のための研修会の実施

日本心理学会からの助成も併せて、西日本豪雨災害支援活動に従事した薬剤師対象に、そのストレス経験についてアンケート調査を実施した。その結果、チーム形成・緊急事態における疲労・無力感や確信のなさ・被災地や被災者との接触・準備や経験の不足・申し訳なさ・不十分な組織的対応、という 7 つの因子が抽出され、災害支援薬剤師も惨事ストレスの二次被害者であった可能性が示唆された。また、自身が被災した、あるいは友人・知人・職場が被災したといった被災経験者の方がストレス度が高く、今後の災害支援時に考慮すべきであることが判明した。

これらを踏まえて、災害支援薬剤師のための研修会を企画したが、その際には、薬剤師が「支援する側」として機能する際に必要な知識と同時に、自らが被災者・二次被災者である、という場合の心理的状態とそのコントロールに関する知識についても研修を実施した。また、アンケート調査において、準備不足や派遣体制の構築が不十分であることも大きなストレス要因として挙げられたことを踏まえて、DMAT 等で被災地支援にあたっている薬剤師による、薬学的支援に特化した研修会も実施して、全体として災害支援薬剤師のストレスの低減を図った。

また COVID-19 の蔓延は CBRNE 災害であると考えられたため、地域医療におけるメンタルヘルス維持に資する薬局薬剤師の養成、という観点も取り入れた。

具体的な内容は、以下のとおりである。

26P1-am1-153

災害支援薬剤師のための研修会実施の試み

○伊原 千晶[1] (1. 京都先端科学大人文)

謝辞: 本研究はJSPS科研費JP17K00472のおよび(公社)日本心理学会による2019年度「災害からの復興のための実践活動及び研究」の助成を受けた。

(3)まとめと今後の展望

薬剤師の服薬指導は「決まった場所で定期的継続的に面接する」というカウンセリングの枠組みと類似の構造であり、この積極的利用が患者や家族への心理的支援に繋がる。COVID-19 蔓延に伴うメンタルヘルスの悪化が叫ばれて久しいが、その終焉後も、地域におけるメンタルヘルス維持の担い手として、薬剤師が機能することは極めて重要なことである。

本研究の立案後も、薬剤師の職能は更に大転換が求められた。「改正薬機法」で「継続的な服薬状況の把握・指導」が義務づけられ、薬局は「薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」(第２条)でもあるとされ、対物業務効率化のための機器や調剤補助員の導入が積極的に推進されている。「地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援するための取組を行うこと（健康サポート機能）」が薬局のあるべき姿であり「地域連携薬局・専門医療機関連携薬局」の認定基準には「利用者の心身の状況に配慮する構造設備の概要」として「利用者が座って」情報提供・指導を受けられる「間仕切り等で区切られた相談窓口並びに相談の内容が漏えいしないよう配慮した設備」「個室等プライバシーの確保に配慮した設備」が明記されたが、これはカウンセリング実施時の設備に近いものである。

令和６年から適用される新しい薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいても、不十分ながら精神医学的内容が追加され、また厚生労働省は新たな薬剤師の機能として薬剤レビューの記録を求めようとしている。本研究で重視した薬剤師の対人援助機能に対する社会的要請は益々大きくなっており、今後も教育研修内容の精査・標準化が行われることが望まれる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 伊原千晶	４．巻 48
２．論文標題 薬剤師による心理的支援　－現状と展開－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 人間文化研究	６．最初と最後の頁 31-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊原千晶	４．巻 40
２．論文標題 疾病観の変遷とコミュニケーション教育の展開－不確実性の時代の対人援助職教育－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人間文化研究	６．最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 伊原千晶
２．発表標題 災害支援薬剤師のための研修会実施の試み
３．学会等名 日本薬学会第143年会
４．発表年 2023年

１．発表者名 伊原千晶
２．発表標題 薬剤師のための臨床心理学講座開催の試み－対人援助職としての薬剤師 養成のための教育プログラム開発に向けて－
３．学会等名 第6回日本薬学教育学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Chiaki IHARA
２．発表標題 Is it possible to make pharmacists good Samaritan by teaching them clinical psychology? - Analysis of free description type post-questionnaire answers -
３．学会等名 ACH International Conference on Communication in Healthcare (ICCH)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 伊原千晶、金田 崇文、見尾 光庸、明石 宙郎、岡野 泰子、藤原 弘喜、岡部 由香
２．発表標題 西日本豪雨災害支援活動に従事した薬剤師のストレス経験(1)-全体的傾向-
３．学会等名 第14回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊原千晶
２．発表標題 西日本豪雨災害支援活動に従事した薬剤師のストレス経験(2)-面接調査から得られた薬学教育への示唆-
３．学会等名 第5回日本薬学教育学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊原千晶、見尾 光庸、金田 崇文
２．発表標題 西日本豪雨災害支援活動に従事した薬剤師のストレス経験(3)-支援後のストレス反応-
３．学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Chiaki IHARA
２．発表標題 Advantage of using the experience of cancer patients/survivors for the education of pharmaceutical students
３．学会等名 2019 International PsychoOncology Society World Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊原千晶
２．発表標題 薬剤師を対人援助職にするための教育とは ― What(何を)? How(どのように)?? ―
３．学会等名 第三回日本薬学教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 亀井美和子
２．発表標題 ディスコミュニケーションの状況からみた対人援助力の必要性
３．学会等名 第三回日本薬学教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊原千晶、長谷川洋一
２．発表標題 患者・生活者のために薬剤師が果たす役割を自覚するための授業計画についてー共感的態度涵養と薬剤師像の深化を目指してー
３．学会等名 第二回日本薬学教育学会大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	亀井　美和子 (Kamei Miwako) (00237504)	帝京平成大学・薬学部・教授 (32511)	
研究分担者	松村　人志 (Matsumura Hitoshi) (50173886)	大阪薬科大学・薬学部・教授 (34413)	
研究分担者	松島　哲久 (Matsushima Akihisa) (60209541)	大阪薬科大学・薬学部・研究員 (34413)	
研究分担者	見尾　光庸 (Mio Mitsunobu) (70190600)	就実大学・薬学部・教授 (35307)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関